

第2部-第3章. 近代化の進展と国民国家形成

① 1848年～近代ヨーロッパの転換点

<七月革命と二月革命>

王政復古後のフランス……貴族優遇、保守反動化



- ▶ 1830年 七月革命……パリ市民の武装蜂起、市街戦勝利
 - ⇒ 七月王政……オルレアン家 ルイ・フィリップ が国王即位
富裕な商工業者・銀行家たちが、革命の激化を恐れて早期終結を図る
⇔ 労働者たちによる選挙権拡大要求
- ▶ 1848年 二月革命……共和派と社会主義者が協力してパリ市街戦勝利、第二共和政 (-1852)
 - ⇒ 共和政臨時政府……初めて社会主義者が政権参加、男子普通選挙実施
しかし保守的農民や商工業者と対立し、社会主義者は政権から排除される
 - ⇒ 同年12月 ルイ=ナポレオン (ナポレオン1世の甥)、フランス大統領当選

<三月革命とウィーン体制の崩壊>

- ▶ 1848年 三月革命
ウィーン暴動……オーストリア宰相メッテルニヒ国外亡命 →ウィーン体制崩壊
ベルリン暴動……プロイセン国王に憲法制定を約束させる
ドイツ連邦 (1815年、35君主国・4自由都市からなる) の諸邦でも革命運動
1848-49 フランクフルト国民議会……ドイツ諸邦代表者たちがドイツ統一を議論
- ▶ 諸国民の春
 - ・複合民族国家オーストリア領内で、ハンガリー人・チェコ人の民族独立運動
 - ・イタリア統一運動 →いずれも失敗に終わる

<19世紀の節目となった1848年>

1848年革命の成果＝「議会と憲法による政治」の実現

資本主義の確立とともに労働運動・社会主義運動がさかんになる

→市民革命をリードしてきた資本家は、貴族などの旧支配層と結ぶようになる

新たな革命の担い手である労働者階級としては、1848年の革命は成功とは言いがたい

<ナショナリズムと国民国家>

- ▶ ナショナリズム……一つの民族が一つの国家 (国民国家) を作る動き → 1848年は失敗

<フランス第二帝政の成立>

- ▶ 第二帝政 (1852-70)
 - 1852 ルイ=ナポレオン、国民投票で皇帝に即位、ナポレオン3世
イギリスに対抗し、東南アジア (仏領インドシナ) 植民地化に着手
しかし普仏戦争 (1870-71) に敗れ皇帝退位
 - 1871 パリ・コミュン……パリ市民による史上初の労働者政権 → 2ヶ月で鎮圧
- ▶ 1875 第三共和政 憲法成立

② イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化

<イタリア統一運動>

- ▶ 1848 マツツイーニ、青年イタリアを結成しローマ共和国建国 → フランス軍に鎮圧される
 - ▶ サルデーニャ王国 …… 国王 ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世、首相 カヴール
 - 1859 仏ナポレオン3世と結んでオーストリアと戦い、ロンバルディア獲得
 - 1860 フランスにサウオイア・ニースを割譲する見返りに、中部イタリア併合
 - 〃 青年イタリア出身の ガリバルディ が、シチリア・南イタリアを征服
→ サルデーニャ王にこれを献上
 - 1861 イタリア王国 成立（首都トリノ）
 - 1866 普墺戦争に乗じて、オーストリアから ヴェネツィア を奪う
 - 1870 普仏戦争に乗じて、ローマ教皇領 を併合、ローマ遷都
- ※ 未回収のイタリア …… ティロル、トリエステ（オーストリア領）

<ビスマルクとドイツの統一>

- ▶ プロイセン王国（首都ベルリン）、国王 ヴィルヘルム1世、首相 ビスマルク
 - 1866 普墺戦争 …… オーストリアを破る → オーストリアをドイツから排除
 - 1870 普仏戦争 …… ナポレオン3世を破る
 - 1871 ドイツ帝国 成立
22 君主国・3 自由都市の連邦制、プロイセン国王がドイツ皇帝に
 - ▶ オーストリア=ハンガリー帝国 …… 支配下の最大民族ハンガリー王国との同君連合国家に
- ※ 三国同盟（1882）…… ドイツ・オーストリア・イタリア ← ドイツ宰相ビスマルクの外交

<東方問題、クリミア戦争とロシア大改革>

- ▶ 19世紀の対立軸=イギリス vs ロシア
ロシアの南下政策（黒海、イラン、極東）を、イギリスが阻もうとする
 - ▶ 東方問題 …… 弱体化するオスマン=トルコ帝国領をめぐる、英・仏・露の争い
 - ①. ギリシア独立戦争 …… ギリシアのトルコからの独立を英仏露が援助
 - ②. エジプト=トルコ戦争
トルコからの自立を図るエジプト総督ムハンマド・アリーをフランスが援助
 - ③. クリミア戦争（1853-56）…… ロシア vs トルコ、イギリス、フランス
ロシア敗北 → 新しい皇帝アレクサンドル2世、近代化の必要性を痛感
 - 1861 ロシア、農奴解放令 …… 農奴身分からは解放、しかし経済的自立には至らず
 - 1870's ナロードニキ（人民主義者）の運動…… 農民を啓蒙し革命をめざすが失敗
 - ④. 露土戦争（1877-78）…… ロシアがトルコを破る
→ サンステファノ条約 …… ロシアがバルカン半島進出
- ↓
- 1878 ベルリン会議 …… 英の露への抗議、ドイツ宰相ビスマルクが両者を調停
→ ロシアの南下は阻まれる

※ビスマルクは、イギリスの良好な関係を図る一方、ロシアとも再保障条約締結

③ アメリカの拡大と第2次産業革命

<アメリカの拡大と移民>

- ▶ モンロー宣言 (1823) ……第5代大統領モンロー
ヨーロッパ・アメリカ両大陸間相互不干渉 →以後のアメリカ外交の基本
- ▶ イギリス系以外の移民増加
アイルランド系 (じゃがいも飢饉)、ドイツ系 (現在のアメリカで最多)
- ▶ 先住民を抑圧しながら フロンティア (開拓最前線) の西進
1848 米墨戦争……メキシコからカリフォルニアを獲得
→金鉱発見でゴールドラッシュ、カリフォルニアの州昇格

<南北戦争と奴隷解放>

- ▶ 南部と北部の経済的対立
 - 南部……黒人奴隷を使役し大農場経営、綿花をイギリスへ輸出 →自由貿易、州権主義
第3代ジェファソン以降、州権主義の大統領が続く (民主共和党→**民主党**)
 - 北部……商工業・資本主義経済の発展途上 →連邦政府主導での保護関税政策を望む新州誕生のたびに、そこを自由州にするか奴隷州にするかで対立
- 1854 **共和党** 結成……自由な労働力を欲し奴隷制廃止主張
- ▶ 南北戦争 (1861-65) ……1860年、共和党の リンカン が大統領に当選
→南部諸州が合衆国から離脱してアメリカ連合国を結成、北部との戦争に
- リンカンの政策
 - 1862 ホームステッド法……西部農民に5年間定住開墾すれば160エーカーの土地を無償給与
 - 1863 奴隷解放宣言
 - 〃 ゲティスバーグの戦い → 北部優勢に
 - 1865 南部降伏、戦争終結 (その直後リンカン暗殺)

<戦後の発展と残された課題>

- ▶ 戦後、産業革命発展 1869年、大陸横断鉄道 開通
- ▶ 黒人問題は残る
 - ・奴隷から解放され小作人となるが、生活苦
 - ・憲法修正で公民権・選挙権が付与されたが、南部諸州の州法では差別継続・人種分離
- ▶ 先住民抑圧もそのまま
- ▶ 帝国主義へ
 - ・国内……労働組合運動を弾圧
 - ・対外
 - 1898 米西戦争 ……キューバを独立させ経済的支配下に
スペインからフィリピン、グアム島、プエルトリコ獲得
 - 〃 ハワイ王国を併合
 - 1914 パナマ運河 開通……コロンビアからパナマを独立させ建設工事権獲得

<科学の世紀と第2次産業革命> →次節へ

④ 帝国主義と世界の一体化

<科学の世紀と第2次産業革命>

▶ 科学の発展

レントゲン (X線、1895)、キュリー夫妻 (ラジウム、1898)、原子論
医学・細菌学……パスツール、コッホ (結核菌・コレラ菌)、北里柴三郎 (ペスト菌)
ノーベル (ダイナマイト発明、1866)

▶ 第2次産業革命

ダイムラー、ベンツ (自動車)、ディーゼル (ディーゼル機関)
ジーメンス (発電機・電車)、エディソン (蓄音機・電球など) etc.

1870年代、石炭から石油・電力へ、重化学工業の発展

巨額の資金必要 → 銀行と大企業の結び付き (独占金融資本)

→ 独占資本主義の時代に

カーネギー (鉄鋼)、ロックフェラー (石油)、クルップ (兵器) etc.

<帝国主義の成立>

▶ 帝国主義 ……資本主義の変質に伴う膨張主義 (植民地獲得) のこと

第2次産業革命の結果、巨大企業による寡占が進んだ。一方、生産発展に国民の購買力が伴わなくなり、国内だけでは利潤を上げにくくなった大企業は国外に進出しようとする。

→ 政界・財界と軍部が結び付いて、植民地を獲得する動きが活発になる。

まずイギリス・フランスが、遅れてドイツ・アメリカ・ロシア・日本が植民地獲得へ。

19c末から20c初にかけてアジア・アフリカにおいて列強同士の軍事衝突頻発

<植民地化の過程>

▶ アフリカ分割……19世紀後半、リヴィングストン、スタンリーらが内陸探検

1885 ベルリン会議……ビスマルクが列強対立を調整

・エジプト

1869 スエズ運河 完成……フランスによるエジプトとの共同経営

1875 イギリスがエジプト政府からスエズ運河株式買収

1882 イギリスがエジプトを事実上の保護国に

1898 ファシヨダ事件 ……イギリス・フランスが南スーダンで衝突

フランスが妥協し、イギリスとともにドイツに対抗していくことに

・南アフリカ

1815年 イギリスがオランダからケープ植民地を獲得

→ これを嫌ったオランダ系植民者 (ホーア人) が、その北に2国建国

この2国で金鉱・ダイヤモンド鉱が発見される

1899年 南アフリカ戦争 ……イギリス・ケープ植民地がボーア人の2国を併合

南アフリカ連邦として自治領化、人種隔離政策 (アパルトヘイト)

<移民の時代>

19世紀末から1920年頃……資本主義の発展で、常に新たな労働力が求められる

▶ アメリカ……旧移民 (ドイツ人・北欧のプロテスタント、アイルランド人)

新移民 (ユダヤ人、ロシア人、ポーランド人、イタリア人)

▶ 華僑 (中国人) ……東南アジアへ出稼ぎ労働者 (苦力、クーラー) 現地で財閥を形成する者も

▶ 印僑 (インド人) ……南アフリカなどイギリスの植民地へ